

## 【東京】 帝京大学医学部 泌尿器科



## ●当院の特色

帝京大学医学部附属病院は東京都板橋区に位置し、病床数1078床と多数の医療スタッフを有する都内有数規模の病院です。1971年9月1日の開院以来、地域の拠点病院としての機能を果たすと同時に、専門的治療を必要とする方々が遠方から多数来院されています。2009年5月には現在の病院棟が開院し、充実した設備で専門的診療を行っています。



## ●当科の特色

帝京大学泌尿器科では泌尿器疾患全般を診療しつつ、とくに、①前立腺癌、腎細胞癌、尿路上皮癌（膀胱癌・腎盂尿管癌）、精巣腫瘍といった尿路生殖器悪性腫瘍、②尿路結石や前立腺肥大症などの泌尿器良性疾患、③男性不妊症・性機能障害などのアンドロロジー部門、を3つの柱として、大学病院として先進的な臨床、教育、研究に力を入れて取り組んでいます。

最新の機器を用いた低侵襲治療は泌尿器科の特徴であり、その代表がロボット手術や腹腔鏡手術システムです。当科のロボット手術は、ダ・ヴィンチXiを用いて、根治的前立腺摘除術、腎部分切除術、根治的膀胱摘除術、腎盂形成術、副腎摘出術、腎摘除術、腎尿管全摘除術と、ほとんどの臓器癌に対応しています。私たちは他にも、顕微鏡下（マイクロサージャリー）でおこなう精索静脈瘤に対する低位結紮術、レーザーを用いた経尿道的尿管碎石術（TUL）、光力学診断補助下の経尿道的膀胱腫瘍切除術（PDD-TURBT）、グリーンライトレーザーを用いた経尿道的前立腺蒸散術（PVP）などを積極的に行っており、2022年度にはMRI fusionエコーガイド下前立腺生検を開始しました。このように、最新機器が揃っていることも大学病院ならではの強みです。

一方、高度な医療には他科との協力体制が必須です。近年良く用いられる免疫チェックポイント阻害剤では、特有の有害事象が発生した場合でも、迅速に内科と協力して診療する体制ができています。また、下大静脈進展を伴う腎細胞癌など、複数科合同での対応を要する高度局所進行癌に対する手術も、積極的に実施しています。このように、大学病院ならではの院内連携体制と最新機器を生かして、先進的な臨床、教育、研究に力を入れて取り組んでいます。

## ●初期研修医の皆さまへ

当科の勤務者は専門医7名と後期研修医5名（関連病院勤務者を除く）で構成され、入局したばかりの後期研修医の先生にも手厚い指導体制が整っており、先述したような幅広い領域の泌尿器科疾患や手術に関する経験を積むことができます。また、積極的に学会報告や論文作成を奨励しており、大学病院ならではのアカデミックな分野での研鑽も多く得られると思います（2022年は国際学会5演題、国内学会20演題）。一方で、働き方改革にも積極的に取り組んでおり、当直の翌日は原則休みを取れるシフトを組んでおり、無理なく頑張ることができる環境を目指しています。ここ数年の入局者は2020年度2名、2021年度1名、2022年度2名、2023年度3名と継続していて、若くて活気あふれる雰囲気の良い医局です。出身大学はさまざまですので、帝京大学卒業生も、他大学出身の方も大歓迎です。入局をご検討頂ける先生は一度当科にご見学にお越し頂けたら幸いです（連絡先：帝京大学泌尿器科医局長メールアドレスuro@med.teikyo-u.ac.jp）。ぜひ私たちと一緒に、泌尿器科の未来を開拓していきましょう！

